

●北陸

山田 正幸

北陸に一つのプロオーケストラ、オーケストラ・アンサンブル金沢（以下OEK）は石川県立音楽堂を本拠地としている、その邦楽ホール監督に野村萬斎を迎えている。この年は2月（金沢、氷見）萬斎のおもちゃ箱「メンデルスゾーン：『真夏の夜の夢』」狂言とOEKのコラボレーションが行われた。真冬に「真夏の夜の夢」なのだ。シェイクスピア劇にメンデルスゾーンの音楽劇を狂言、琉球舞踊によって上演。日本の伝統音楽とオーケストラが融合した新しい音楽の世界を作ったので有る。合唱は地元の児童合唱団を参加させたことも話題だった。知らず知らず「和洋の響き」に溶け込んだ。

9月石川県立音楽堂定期公演 広上淳一率いるOEKは、今回が日本デビューとなった世界が注目するイスラエル出身の若手ピアニスト、トム・ポローとベートーヴェンの「皇帝」を演奏。創り出す音楽は端正かつエネルギーに満ち溢れ聴衆を魅了した。このプログラムは、金沢のみならず国内各地へ6公演届けられ、いずれも大好評であった。

金沢では5月ゴールデンウィーク期間に北陸・金沢ガルガンチュア音楽祭が今年「世界をつなぐハーモニー」をテーマに行われた。1週間に70回の有料公演、130回の無料公演で街中が音楽に染まった。海外からデンマーク国立フィルハーモニー管弦楽団、ベトナム国立交響楽団、そして地元オーケストラ・アンサンブル金沢で競演が続いた。デンマークフィルはシェーファー指揮でフィンランド、シペリウス:SYM2番等北欧色彩満載。本名徹次指揮ベトナム国立交響楽団には伝統の一弦琴を弾くレ・ジャンと競演ほかエルバシヤとピアノ協奏曲「皇帝」、エルバシヤの音色の繊細さに熱狂。初めて行われたコーラスの祭典では佐藤眞作曲「土の歌」全曲を佐藤眞自身の指揮で歌おうと全国から募集した180名、ベトナム国立響が伴奏するが佐藤眞が体調不良で急遽松井慶太が代役指揮を務めるハプニングあるも会場一帯となって大盛況。

富山県では7月7日 一般社団法人に移行した「とやま音楽文化協会」が自主公演事業を行った。とやま演奏会シリーズ、アンサンブルシリーズ、そして市民音楽フェスティバルで有る。アンサンブルシリーズではOEKのVnトロイ・ゲーギンズ、Vc 富田祥と組んだPf藤井亜里沙のベートーヴェン：ピアノトリオ第5番「幽霊」の爽やかな演奏は話題を呼ぶ。

また富山駅北口前に位置するオーバード・ホール 大ホ

ールは今後2年間の改修工事に為休館する、そのクロージング記念公演が11/15、16日に開催された。「踊れ!第九」で有る。日本ダンスフォーラム賞受賞に輝く森下真樹が演出・振付、ダンスもその仲間達と独自に選ばれた市民ダンサー(24名)が踊ったので有る。指揮辻博之、独唱、合唱団30名は富山にゆかりの有る声楽家達。オーケストラは地元のプロアマ含む特別に編成された「踊れ!第九」管弦楽団である第1楽章から4楽章まで全曲をダンス化したので有る。楽聖の音を視覚で味わえる日が来ようとは！これは贅沢だ！とは指揮者の感想だった。

福井県ではハーモニーホールふくいではロツテルダム・フィルハーモニー管弦楽団公演、沖澤のどか指揮京都市響公演、ピアニスト辻井伸行公演、Himari to Karlis DUO 等等話題になった公演が多い、なかでもsop中田けいがワークショップで実践したパリアフリー公演は貴重で有る、一般の聴衆者と同じように公演を聴けるこのような取組みは全国にも広がる事を期待したい。また地元のアーティストによる「越のルビープロジェクト」も軌道に乗っている。

細川俊夫音楽監督と伊藤恵プロデューサーで行う武生国際音楽祭は34回を迎える。テーマは新旧ウィーン楽派の室内楽である。ベリオ&ブルーエズ生誕100周年記念公演、初参加のsopイレー・スーのシューベルト、シェーンベルク歌声は会場を溢れる響きで魅了した。また作曲ワークショップでは望月京による自作のレクチャーを行い、またチャーリッシュ芸大講師パウマンによる古典の分析による新しい視点に注目。「作曲を通して世界を見る」と言うテーマで作品を取り上げた。

小浜市文化会館では12/14セントラル愛知響をバックにベートーヴェン第九公演は31回目を迎えると言う歴史を創った小牧伸輔合唱指導者は感慨深いとの感想はなお続く。

山田正幸（やまだ・まさゆき）

昭和40年金沢大学卒。石川県音楽文化振興事業団、ガルガンチュア音楽祭シニアディレクター、全国共同制作オペラプロデューサー、日本劇場・音楽堂等協議会音楽部会顧問、オペラ「禅・ZEN」「滝の白糸」「高野聖」プロデューサー、昭56中日教育賞、昭62珠洲市文化賞、平27石川テレビ賞、平28新日鉄住金音楽特別賞、平30北國文化賞、令元渡邊暁雄基金音楽特別賞、令2金沢市文化賞、令4文化庁長官表彰、ソニー音楽財団評議員